



大学女性協会の活動



大学女性協会は、一般社団法人として国際大学女性連盟と協働しながら、「女性の高等教育の向上」「男女共同参画社会の推進」「国際協力と世界平和」を目指して1946年に創設されたN G Oです。奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する提言活動など多様な事業を展開しています。

【奨学金について】

一般奨学金

1947年に設けられました。大学院在籍一年以上で、将来リーダーとなり得る、学業・人物ともに優れた女子学生に対して、奨学金と賞状が贈られます。

社会福祉奨学金

大学もしくは大学院在籍一年以上で、将来リーダーとなり得る、学業・人物ともに優れ、かつ身体障害者手帳の交付を受けている女子学生に対し、贈られます。

安井医学奨学金

医師安井潤氏のご遺族による寄付を基に1991年に設けられました。大学院在籍1年以上で、医学・薬学を専攻し、学業・人物ともにすぐれた女子学生に対し、贈られます。



訃報 (敬称略)

守屋 秀子 (令2.12.2)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます



「会員入会」お誘いの お声かけをお願いします

お亡くなりになった方や体調不良などで、中々思うように活動できない会員が増えてきております。このままでは、支部活動が懸念される状態です。この際、会員拡大を行いたいと思っております。

是非、会員の皆様の積極的な、『会員入会お誘い』のお声掛けをお願いいたします。



編集後記

毎日発表されるコロナ感染者の数。2回目の緊急事態宣言。心が休まる時がありません。真に、何が起きるかわからない世の中。自助努力では防げないことのなんと多い事でしょうか。現首相は、「自助・共助・公助」と表明していますが、どうでしょうか。

どうぞ皆様、健康でお過ごしください。今後も支部活動へのご協力もお願いいたします。

編集担当 佐藤 成子

2021年3月発行

一般社団法人

News Letter

ニュースレター

大学女性協会静岡支部

発行責任者／支部長 山下いづみ



静岡浅間神社（静岡市葵区）では、40年ぶりに楼門が塗り替えられました。塗り替えにはおよそ1トンの漆が使われ、約10センチ四方の金箔が2万2000枚使われています。

支部長挨拶

昨年は新型コロナウイルス感染症が世界的規模で出現し、世界のあちこちで対応におわれ、大変な1年でした。いまだ収束の兆しがみられない状況でございますが、皆さまにおかれましては、今年1年が健やかな良い年となりますようお祈り申し上げます。

昨年2019年より静岡支部では女性のキャリアアップをテーマに事業展開を進めているところです。今年、コロナ禍において、女性の就労打撃が大きいことが露呈しました。2020年11月19日に内閣府男女共同参画局から出されたコロナ下の女性への影響と課題に関する研究会の緊急提言（参考データ）によりますと、就業者数は、男女とも2020年4月に大幅に減少。特に女性の減少幅が大きく、男性37万人減と比べて女性は70万人の減。雇用者数も男性32万人減に対して女性は74万人の減です。雇用形態別の内訳を見ると、非正規雇用労働者の減少幅が大きく、特に女性の非正規雇用労働者の減少幅が大きいことがわかりました。

女性がキャリアを積むことの弊害はなんでしょうか。職場において、女性が指導的立場にいたることがなぜ必要なのでしょう。今年はコロナ対策で延期になっております、各分野で指導的立場にある女性の皆さまとの懇話会を計画しています。

静岡支部では共に活動をしてくださる皆さまを募集しております。お気軽にお声掛けください。

静岡支部長 山下 いづみ



コロナに振り回された教育現場から

山本 みゆき

今年度は様々な意味で「想定外」の年でした。入学式がなくなりようやく実施できた入学ガイダンスで、学生たちは、「はじめまして」と同時に、「授業の取り方」「大学での過ごし方」などを短い時間に詰め込まれ、またそれぞれの実家に戻って行きました。そこから教員も、急遽リモートの授業のノウハウを研修で詰め込まれ、自分でも情報を集め、何とか新学期は始まりましたが、学生の電波の環境が悪くて授業の途中でいなくなる、固まるなどトラブルの連続の末、ようやく互いに遠隔授業にも慣れて今に至っています。



授業が波に乗ってきた次の課題は実習です。学生たちは「幼稚園」「こども園」「保育所」「施設」で実習をするのですが、コロナに対してのそれぞれの対応は微妙に違っており、幼稚園は学校の一種なので、緊急事態宣言が出て学校が休校になると、それに伴って休園になった所が殆んどでした。一方で「こども園」「保育所」は、緊急事態宣言下でもずっと開園しており、医療者、役所等で働く親の子どもさんを預かる役割をしていました。



コロナ禍で奮闘しているエッセンシャルワーカーは、医療者だけではありません。また、緊急事態宣言後、公立園はその立場上、即実習受け入れ不可になってしまったのですが、私立の幼稚園の中には、「入園、進級したのに園に通えない状態が子どもにとって良いはずがない」と少数登園で密を避けるなどの工夫をして園長の責任で登園を続けた園もあり、改めて「公立」と「私立」の立ち位置の違いを知る機会でもありました。

リモート授業が増えたことで分かったことが一つあります。それは、授業における学びは、学生と教員と仲間との間で作られていたのだということです。その行き来する学びは、ICTでは再現できません。コロナ禍の収穫はそれに気づけたことだったのかもしれない。

「デイキャンプ」に参加して

林 幸子



第17回リトルワールドキャンプは、コロナ禍の中で開催が危ぶまれておりましたが、無事「デイキャンプ」として実施されました。

日時：令和2年11月29日（金）10：00～17：00 場所：静岡県立大学体育館
静岡支部からも、1名参加しました。例年なら県内のキャンプ場で行われてきましたが、第17回キャンプは「デイキャンプ」という形で行われました。学生スタッフたちは、楽しい思い出作りを子ども達に体験してもらおうと、一生懸命準備をして来ました。参加者は学生スタッフ17名と顧問1名、通訳2名、そして日本の小学生7名と菊川市にあるブラジル人学校の生徒9名、教師1名でした。「デイキャンプ」は、「はじめましての会」から始まり、「運動会」や「世界旅行」、「ファッションショー」などグループに分かれて決まった時間内に作業するというので、内容は豊富で楽しい時間を過ごしました。振り返って、2010年静岡支部の活動として、多文化共生活動助成や研究奨励事業等を実施し、その関係でリトルワールドキャンプ実行委員会と関わるようになりました。リトルワールドキャンプは子ども達が異文化に興味をもって理解につながる場を作りたいという思いから始まり、この学生達の思いを私達静岡支部は応援して行きたいと思います。

